

# 外部評価報告書

平成25年 6月10日

静岡大学全学入試センター

# 静岡大学全学入試センター外部評価委員会

平成 25 年 6 月 10 日 (月) 実施



## 目 次

全学入試センター外部評価について -----	1
全学入試センター外部評価委員会の概要・講評 -----	4
全学入試センター外部評価結果 -----	8

## 全学入試センター外部評価について

全学入試センター長  
寺下 榮

### 1. はじめに

静岡大学全学入試センターは平成 15 年 10 月 1 日に開設され、設立から 5 年が経過した平成 20 年 10 月 16 日に（第 1 回）「外部評価委員会」を実施している。

全学入試センターは、センター規則第 2 条によれば「入学者選抜に関する企画、広報及びデータ分析等を専門的に調査研究し、各部局で実施する入学試験を専門的立場から支援し、本学における円滑な入学者選抜の実施に寄与する」ことを設置の目的としており、同規則第 3 条では「2 部門を置き、当該各号に掲げる業務を行う」ことが以下のように規定されている。

#### (1) 入試企画広報部門

- ア 入試に係る調査・研究に関すること。
- イ 入試方法の改善及び入学者の分析に関すること。
- ウ 入試に係る広報計画の企画・立案及び広報活動に関すること。
- エ 入試に関連する高大連携に関すること。
- オ 事故の未然防止対策の策定に関すること。

#### (2) 入試情報処理部門

- ア 大学入試センターとのデータ交換処理に関すること。
- イ 個別学力検査入試情報処理及び合否判定資料の作成に関すること。
- ウ 入学者選抜データ等の統計資料作成に関すること。
- エ 入試情報の公開及び開示資料の作成に関すること。
- オ 部局における入試の実施及び情報処理に関する支援に関すること

全学入試センターの目的は、その名称のとおり、全学的な視点で入試を捉えることにあ  
る。少子化の中で安定的に学生を確保するためには、どのような選抜制度が有効なのか、  
大きく変化する入試環境を的確に捉え、量的な観点だけでなく質的な面も考慮した提案が  
必要になる。学外に対して積極的な学生募集・広報活動を展開するとともに、学内に対し  
ても、有効な情報やアラームを発信し続けることが大きな役割と言える。併せて、ミス  
のない公正な入試を実施するために、各学部との密接な連携も求められる。入試情報処理  
に関して、これまで各学部で独自に作成していた種々の帳票作成等についても、様式の統一  
を図り、一括して作成するなど学部事務作業量の軽減に成果をあげている。

今回、外部評価委員会で得られた貴重な提言・助言を今後の業務遂行に十分に活かす  
とともに、全学入試センターを存在感のある学内共同教育研究施設にするために積極的な活  
動を展開していきたい。

## 2. 外部評価委員会について

全学入試センター外部評価委員会は平成 25 年 6 月 10 日に実施した。3 名の評価委員には、4 月下旬に「自己点検・評価報告書」をお送りし、事前に目を通しておいていただいた。

外部評価委員会当日は、まず「自己点検・評価報告書」に沿って、7 つの基準ごとに「優れた点」及び「改善を要する点」について、その根拠を明らかにするとともに、質疑応答の時間を設けた。その後、3 人の評価委員による評価会議を開催していただき、各委員から「自己点検・評価報告書」ならびに当日の聴き取り調査に基づく「講評」をいただいた。

外部評価委員会終了後は、6 月末を期限として、各委員から 7 つの基準について「評価」と「コメント（意見・提言）」及び「総合評価」を記載した「外部評価調査票」を提出していただき、これら資料に基づく「外部評価書」を作成した。

## 3. 評価委員からの「総合評価」について

外部評価委員会当日の最後に、委員長から「(聴き取り調査を受けて) 限られた人数下で、活発な活動をしていることに敬意を表する」旨の講評があったほか、「外部評価調査票」では、3 人の評価委員から多くの基準・項目について「優れている」あるいは「良好である」との高い評価をいただいた。とくに基準 4 の「活動の状況と成果（学外向け活動）」に関しては、それぞれ「大学の顔として学外に種々の有益な情報を発信しており、高く評価できる」「積極的に取り組んでおり、他大学の範となる状況である」「入学希望者に対する直接的な働きかけが大変アクティブに行われている」等のコメントがあった。

一方で「改善すべき点」として、大きく以下の 2 点が挙げられた。基準 2 の「活動の実施体制」と基準 4 の「活動の状況と成果（学内向け活動）」である。前者では 3 人の委員から「教員の定年に伴う補充が行われていないため、設置当初の体制が維持できておらず、マンパワーが不足した中で業務を遂行しており、不安がある」「明らかに人員不足である。現在の教員の年齢構成から見ても、早急に募集を行う必要があると思われる」「5 年・10 年後を考えた活動は言うまでもないが、実は 3 年後も危うい人員体制は改善が急務である」といったコメントをいただいた。

また、後者については「(合格決定者に対する) 入学前準備教育については、入学者受け入れ学部との関与を増やし、それぞれの学部入学へのスムーズな導入につながる教育を提供することが好ましい」等の意見が出ている。改善すべき 2 点はいずれも業務量に対する人員不足に起因しており、早急な対策が必要になっている。

## 4. 評価委員からの提言を受けて

全学入試センターは、設立から 5 年が経過した平成 20 年 10 月に「(第 1 回) 外部評価委員会」を実施し、その際に、多くの基準・項目について「優れている」あるいは「良好で

ある」との高い評価をいただいた。その後5年が経過し、平成25年6月10日に実施した「外部評価委員会」は、設立10年の節目にあたる2回目の外部評価委員会になるが、今回も多く基準・項目について「優れている」あるいは「良好である」との高い評価をいただくことができた。

「自己点検・評価報告書」では、「活動の目的」、「活動の実施体制」、「教員の採用・昇格等」、「活動の状況と成果」、「施設・設備」、「財務」、「管理運営」の7つの基準について厳しく自己点検を行い、優れた点及び改善を要する点を明らかにした。一方「外部評価委員会」では、3名の評価委員から数多くの貴重な提言、示唆に富む助言をいただくことができた。今後は「自己点検・評価報告書」と「外部評価書」に基づき、これまで以上に存在感のあるセンターを目指していきたい。

そのためにも、今回「改善すべき点」として、3人の評価委員がそろって指摘されたセンターの人事体制については、直ちに具体的な検討に入る必要がある。「自己点検・評価報告書」で触れたような「入試→教務・成績管理→進学・就職という、個々の学生の入口から出口までを一本化して管理する学生機構（教育機構）のような組織の中に位置づける」ことも選択肢のひとつとして考えられよう。

外部評価委員長からの「非常に気になるのは後継教員の確保・育成である。3人の教員の年齢構成が近接しており、加えて定年も近いことから入試業務という継続的かつ重要な業務の遂行に早晚破綻を来す恐れを危惧する。ここまで築き上げてきたノウハウを継承し、滞りなく業務が遂行できるように次世代の教員の検討が急務である」という「総合評価」に、当面の課題が集約されていると言えるだろう。

## 謝辞

今回、評価委員を3氏にお願いした。国立大学で入試関係の業務に精通されている林篤裕教授（九州大学基幹教育院）と高木繁教授（名古屋工業大学学長特別補佐・アドミッションオフィス長）の2氏と、多くの受験生を抱え、進学指導に留まらず幅広く教育問題に関わってこられた室崎欣彦氏（学校法人河合塾中部本部本部長）である。ご多用な中、評価委員として貴重な助言や提言はもとより、改善のための方途まで示唆していただいた。厚く御礼申し上げます。

平成25年7月

## 全学入試センター外部評価委員会の概要・講評

1. 開催日時 平成 25 年 6 月 10 日（月）14：00～16：55

2. 場所 本学共通教育A棟5階大会議室（南側）

3. 評価委員

林 篤 裕 氏 九州大学基幹教育院教授

高 木 繁 氏 名古屋工業大学アドミッション・オフィス長

室 崎 欣 彦 氏 河合塾中部本部本部長

4. 本学出席者 石井 潔, 寺下 榮, 村松 毅, 田中 勝  
(陪席) 伊東 裕治, 鈴木 正人, 谷内 俊宏

5. 委員会の経過

14：00 開会挨拶（石井教育担当理事）

14：05 出席者自己紹介及び外部評価委員会委員長の選出

14：10 自己評価書説明（寺下全学入試センター長）

I 現況及び特徴

II 目的

III 基準1～基準3

14：25 自己評価書説明（村松・田中全学入試センター教員）

III 基準4（1）

14：55 自己評価書説明（寺下全学入試センター長）

III 基準4（2）～基準7

15：02 質疑応答

16：22 評価委員による評価会議

16：45 外部評価委員会からの講評

16：50 閉会挨拶・謝辞（寺下全学入試センター長）

16：55 終了

6. 委員会の概要・講評

寺下全学入試センター長から配付資料の確認及び委員会の進行等について説明があった。

#### ○開会挨拶

石井教育担当理事から、全学入試センター外部評価委員会を開催するにあたり、出席いただいた3名の評価委員に対して謝辞があった。

続いて、全学入試センターの設置経緯及び役割等について説明があった。

#### ○出席者の紹介及び外部評価委員会委員長の選出

座席図に基づき、自己紹介があった。

続いて、本委員会委員長に九州大学基幹教育院教授 林 篤裕 氏を選出した。

#### ○自己評価書説明

基準ごとの自己評価の概要等について、全学入試センター教員から以下のとおり説明ののち、質疑応答を行った。

寺下センター長…自己評価書Ⅰ、Ⅱ及びⅢの基準1、基準2及び基準3

村 松 教 授…自己評価書Ⅲの基準4（1）の入試企画広報部門

田 中 准 教 授…自己評価書Ⅲの基準4（1）の入試情報処理部門

寺下センター長…自己評価書Ⅲの基準4（2）（3）、基準5、基準6及び基準7

#### ○質疑応答

林委員長 入試情報処理部門において、得点調整の必要の有無について記載されているが、募集要項に謳われているのか。また、どのように処理しているのか。

（回答） 募集要項には、平均点で20%以上の差が生じ、これが問題の難易差に基づくものと認められる場合、得点調整を行うと記載している。得点調整の方法は大学入試センター試験に準じ、システムティックに行なっている。

高木委員 全学入試センター教員に昇格の基準はあるのか。

（回答） センター教員の昇格の発議は、全学入試センター長が共同施設管理委員会に対し申し入れることとなるが、センター教員の昇格を申し入れ辛い状況がある。また、任期付き教員の場合、再任の基準はあるが、昇格の基準はない。

林委員長 任期切れ及び定年により3年以内に大きな人事案件を抱えることとなるが、入試情報処理の外注を検討しないのか。ミスが許されない業務であり、外注する場合は2年程度は旧方式と平行しながら確認作業を行う必要がある。

（回答） 平成27年度にセンター組織の見直しを予定しており、その中で他センターとの統合による機構化も含め検討したい。

林委員長 本来であれば、入試情報処理部門の教員が1名となった段階で補充等何らかの対応をすべきであったと思われる。



(回答) 学内の事情もあり、対応できなかった。

林委員長 A0 入試の「基礎学力を問う試験」の問題を何故全学入試センターが作成しているのか。学部が作成すべきでは。

(回答) 全学入試センターが学力試験の導入を提案した流れの中で、その業務を担当することとなった。本来は該当学部で作成することが望ましいと思う。全学入試センターが作成することで、問題の難易度が高くなることを避ける意味合いがあったことも考えられる。

高木委員 入学前準備教育はどのような形で実施しているのか。

(回答) 入学予定者(A0・課さない推薦)を対象に、12月の第1週・第2週に静岡・浜松それぞれのキャンパスにおいてオリエンテーションを実施し、その中で業者作成の入学前準備教育プログラムを各学部・学科別に案内し、任意で受講をお願いしている。

高木委員 オリエンテーションを学部がもっと関与するプログラムとした方が学生にとってもよいと思われる。

室崎委員 入学辞退者の分析は全学入試センターが行っているのか。

(回答) 入試企画広報部門の下に入学者選抜方法研究部会を組織し、同部会が作成する入学者選抜方法研究部会報告書を毎年作成している。同報告書の中で文系を中心に毎年ではないが入学辞退者等についても分析し、報告している。

室崎委員 大学総合案内を3年毎に大改訂しているが、その理由は何か。

(回答) 当初はその都度学長裁量経費を申請して作成していたが、3年単位では、翌年度は部分改訂で1～2割程度の変更となり、手間と経費の削減になっている。

室崎委員 近年は、毎年改訂する方式でも内容や経費面で十分対抗できる業者があると思われる。

室崎委員 入試ミス防止のための情報共有化は制度的にあるのか。

(回答) 入試ミスを防止するため、本学で過去に起こった事例や他大学の事例を全学入試会議や学力検査委員会にて情報共有している。また、最後の全学入試会議において当該年度における入試の反省事項を取りまとめ、次期委員に引継ぎを行っている。

林委員長 静岡・浜松間のキャンパスの距離は作業や情報共有等において支障になっているのではないか。

(回答) 頻繁に行き来ができず、テレビ会議を実施しても実際に顔を合わせないとやり辛いことがある。

林委員長 高校に出向いた説明会や入試相談会等の広報活動を多く実施しているが、志願者増等の効果はあるのか。

(回答) オープンキャンパスに参加した新入生の割合は、AO入試や推薦入試では5割、前期日程は2割、後期日程が1割という統計があり、費用対効果を考えると難しい面があるが、高校訪問の際、先方の対応者が本学の卒業生の場合は、効果があるように感じている。

林委員長 高校からの大学訪問の対応には、当該高校の卒業生等をもっと活用した方がよいと思われる。

高木委員 全学入試センター及び入試課が入居する建物は、耐震工事をしてあるのか。

(回答) 耐震工事に予算措置されることとなった当初に済ませている。

林委員長 自己評価書Ⅲの「基準3(1)観点ごとの分析」において「最適志願者リクルーティング能力」「最適入学選抜能力」との記載があるが、「最適」とは何か。

(回答) 実質倍率で2倍以上、志願倍率で3倍以上ないと最適な選抜ができないという意味である。

○評価委員による評価会議(評価委員のみにより同会場にて打合せ)

○ 評価委員(林委員長)からの講評

- ① 全学入試センターの業務について、入試課との連携もよく、アクティブに活動していることを高く評価する。
- ② 全学入試センターの全教員が、2～3年のうちに任期切れ又は定年を迎えることについて、人事において強く危惧せざるを得ない。静岡大学としての社会的・対外的な責任を果たせるよう要望する。特に情報処理部門担当について外部業者への委託を検討する、早急に後進を採用する等、業務の継承が速やかにできるよう強く申し入れたい。
- ③ 入学前準備教育の対応及び「基礎学力を問う試験」の問題作成について、学部の関わりや責任感をもっと引き出すような仕掛けが必要である。

○閉会・謝辞

寺下センター長から、各評価委員に対し、外部評価委員会への協力及び評価の講評等に関するお礼の謝辞と閉会の挨拶があった。また、改善提案の人事案件については、2、3年後までには形をつくらなければならないので、理事に相談しながら全学的な規模での組織変更の検討の中で解決していきたい旨説明があった。

## 全学入試センター外部評価結果

### 1. 各基準の数値評価について

各基準について、評価委員に次の4段階で評価していただいた。

- 4：優れている。
- 3：良好である。
- 2：改善すべき点がある。
- 1：不十分である。

区 分	A委員	B委員	C委員	平均
基準1 活動の目的	3	4	4	3.7
基準2 活動の実施体制	2	2	2	2.0
基準3 教員の採用・昇格等	3	3	2	2.7
基準4-1-1-1 活動の状況と成果(入試企画広報部門)学外向け活動	4	4	4	4.0
基準4-1-1-2 活動の状況と成果(入試企画広報部門)学内向け活動	4	3	4	3.7
基準4-1-1-3 活動の状況と成果(入試情報処理部門)	4	2	4・2	3.0
基準5 施設・設備	3	4	3	3.3
基準6 財務	4	4	3	3.7
基準7 管理運営	3	4	4	3.7

### 2. 各基準のコメントについて

各基準について、評価委員に下記のとおりコメントをいただいた。

---

基準1 活動の目的 (pp. 4~6)

【コメント】

A 当センターの設置目的を正しく理解すると共に、その置かれている状況を的確に把握し、組織立って活動を行い有益な情報を発信しており、評価できる。

B 十分であると思われる。

C 明確な目的が定められており、それに対して入試企画広報および入試情報処理の両部門がしっかりと機能している。

今後も量的・質的に優秀な受験生および入学生の確保のために全学部的な活動を続けていくことが必要。

---

基準2 活動の実施体制 (pp. 7～8)

【コメント】

- A 教員の定年に伴う補充が行われていないため、設置当初の体制が維持できておらず、マンパワーが不足した中で業務を遂行しており、不安がある。特に入試の情報処理に関する業務は一朝一夕に担えるものではなく、長期的視点に立って、早めの補充と育成が望まれる。トラブルが発生する危険性をはらんでいるため早急に対応を検討する必要がある。
- B 明らかに人員不足である。また、現在の教員の年齢構成から見ても、早急に募集を行う必要があると思われる。特に情報処理に関しては、外部委託についても検討する必要がある。
- C 5年・10年後を考えた活動は言うまでもないが、実は3年後も危うい人員体制は改善が急務である。

---

基準3 教員の採用・昇格等 (pp. 9～10)

【コメント】

- A 全学の管理人員として教員の採用・評価手順が明確に定められており、また各教員の専門性を活かした業務を順調に遂行しており、問題はない。
- B 現時点で、それほど大きな問題ではないが、昇格に関しても何らかの規程がある方が望ましいと思われる。将来の新規採用時にこの点が明確になっていないと、差し支えが生じる可能性がある。
- C 採用については明確で適切な基準が設けてあるが、昇格についての基準が見当たらない。

---

基準4-1-1-1 活動の状況と成果

(入試企画広報部門-学外向け活動) (p. 11)

【コメント】

- A 大学の顔として学外に対して種々の有益な情報を発信しており、高く評価できる。

- B 非常に積極的に取り組んでおり、他大学の模範となる状況である。
- C 広報物の作成および配布等よく工夫されている。入学希望者に対する直接的な働きかけが大変アクティブに行われています。多くの時間を割いての活動は高く評価されます。

---

#### 基準4-1-1-2 活動の状況と成果

(入試企画広報部門-学内向け活動) (pp. 11~12)

##### 【コメント】

- A 入試や新入生に関する多くの有益な活動を行っており、高く評価できる。  
ただ少し気になる点として、「基礎学力を問う試験」は本来であれば試験の利用部局（2学部）が主体的に関わるべき事項であり、当センターの関与を軽減する方向で検討してはどうかと考える。同様に、「入学前準備教育」についても、入学者受け入れ学部との関与を増やし、それぞれの学部入学へのスムーズな導入につながる教育を提供する方が好ましいと考える。
- B 全体としては十分に活動しているが、入学前教育などは、むしろ学部が担当すべきであるとも考えられる。特に「基礎学力を問う試験」まで担当する必要があるとは考えられない。
- C 入学者を対象としたアンケート実施により、学生の実態や不安などに関心を持ち今後の入学希望者への情報提供のありかや、学内改善のポイントを共有化しようとする試みは大変良い。

---

#### 基準4-1-1-3 活動の状況と成果

(入試情報処理部門) (p. 12~13)

##### 【コメント】

- A 入試業務の根幹に関わる多くの活動を遺漏なく遂行しており、高く評価できる。  
ただ、入試データの情報処理と合否判定資料の作成については、厳格さが要求される大学の根幹に直結した作業にも関わらず、配置されている人員が少ないため、多くの大学が採り入れ始めている外部委託等の導入を検討してみても良いのではないかと考える。
- B 前述した通り、かなり無理のある状態だと考えられる。専任教員増の必要が大であるし、一部は外部へ委託した方が良いと考えられる。
- C 入試判定に係わる資料作成は現状少人数で大変なご苦労の中、ミス無く実施されてい

ることは優れていると感じます。

今後の事を考えた場合安定した運営の為にも、セキュリティーに関する条件などは整備したうえで、外部専門機関の導入も検討すべきであると考えます。

---

基準5 施設・設備 (pp. 17～18)

【コメント】

- A ネットワークを含めた施設は適正に整備され利用されている。また、そのネットワーク上では4つのタイプのWebサイトが運営され、当センターの業務に寄与している。
- B 秘匿性という制限の中では、十分に活動していると思われる。
- C 学外に対する情報提供は様々なチャンネルでなされている様子です。今後はどの媒体が有効かの見極めも必要になるかと思われますので、市場調査の観点も導入してゆくことが必要です。

---

基準6 財務 (pp. 19～20)

【コメント】

- A 毎年度の当センターの活動を財政面から支え、それらは適切な手続きのもとで執行されており、問題はない。
- B 費用対効果の観点においても、十分良い状態だと思われる。
- C 広報費予算は恒常経費として一定額が予算化されているようですが、より優秀な入学者獲得の為にも媒体チャンネルの見直しや、情報発信内容の見直しなども必要となる。(消費税変動に対応した実質目減りしない措置は必要)

---

基準7 管理運営 (pp. 21～23)

【コメント】

- A 当センターの設置目的に基づいて、組織運営がなされており、加えて他部局とも協力しながら円滑に業務が遂行されており、問題はない。
- B 特に問題はない。

C 特になし。

=====

総合評価 （「自己評価書」全体を通して）

A 欠員の補充が凍結された中、有能な3名の教員で入試をはじめとする高大連携に関わる多くの業務を遺漏なくかつ精力的に遂行しており、高く評価できる。

そうした中で非常に気になるのは上にも記載した後継教員の確保・育成であろう。3名の教員の年齢構成が近接しており、加えて、定年も近いことから入試業務という継続的かつ重要な業務の遂行に早晩破綻を来す恐れを危惧する。ここまでに築き上げてきたノウハウを継承し、滞りなく諸業務が遂行できるように次世代の教員の検討が急務であると感じた。

B 特になし

C 全体を通して、全学入試センター関係者の皆様は大変なエネルギーを注いでおられることに感服いたしました。

今後さらに、より質の高い入学希望者・入学者確保の為に尽力されることをお願いしますが、人員の高齢化(定年間近の方が多い)ことなど問題はありますので全学を挙げて関係者の人員確保に早急に取り組んでいただくことを願います。